

人文学部卒業研究

少年犯罪の報道の在り方
題 目 一神戸連続児童殺傷事件を例に一

指導教授 栗木千恵子

印

提出年月日 2018年 12月 17日

学籍番号 HI14059

氏 名 横田 幸太郎

少年犯罪の報道の在り方―神戸連続児童殺傷事件を例に―

HI14059

横田 幸太郎

要旨

本研究の目的は、少年犯罪に対する報道の在り方を、1997年に起こった『神戸連続児童殺傷事件』(酒鬼薔薇聖斗事件)を例に、少年犯罪の報道が当時どようになされていたのかを各メディアから調査し、最終的に少年犯罪の報道に対して、どのようになればよいかを考察し示すことが目的である。

本編の構成として第一章では、事件の概要と事件発覚当時の報道・それに伴った報道の変遷について Wikipedia や当時の記事などから、今回の事件の概要を中心にまとめた。第二章では、各メディアでその時使用された記事のタイトルから調査を行い、どのような言葉が多用しているのか。そして、少年 A の著書である『絶歌』を一メディアという側面で捉え、少年 A にとって『絶歌』とはどのような意味を持っているか、これらの結果からメディアが行っている報道は、どのようなことが考えられるのかを論じていく。第三章では、前章からの結果を元に、少年犯罪の報道においての『事件報道』の在り方について論じていき、また現代のメディアに関する諸問題について触れていく。そして第四章では、結論を述べ、今後の報道の課題を述べていきたい。

今回様々な凶悪事件の中で、何故『神戸連続児童殺傷事件』を例に選んだのか。それは多くの事件の中でも、事件の当事者である少年 A が時を経て、自身の著書である『絶歌』を刊行したことが起因している。事件の加害者の声が直接垣間見えるものは、研究の対象として最適だと考え、またこの本に対する世論の反応がどのようなものなのか、約 20 年前の事件に対して、どのような考えをメディアは発信していったのかを明らかにしたいと考える。

今回の調査結果から分かったこととして、記事のタイトルに使われている言葉の中にある関連性が見受けられた。そして絶歌に隠された意図として、私の考えを述べていきたい。

そして、最後に今までのメディアと比べて、今後の報道に関する課題として何が必要なのかを述べていきたい。

キーワード

少年犯罪 神戸連続児童殺傷事件 メディア 絶歌 事件報道

目次

序論	1
1. 先行研究の検討	2
1.1 神戸連続児童殺傷事件	5
1.1.1 事件発覚までの流れ	5
1.1.2 事件発覚直後の報道	7
1.1.3 時間の経過から見る報道の変遷.....	8
2. タイトルから見る事件の報道	8
2.1 新聞.....	9
2.2 週刊誌	13
2.3 『絶歌』というメディア	14
2.4 各メディアから見る報道の在り方.....	15
3. 事件報道	16
3.1 事件報道の難しさ	17
3.2 現代メディアの諸問題	17
4. 結論	18
5. 今後の報道に関する課題	19
参考文献	20